

シフネルゴケ *Schiffneria hyalina* Steph.

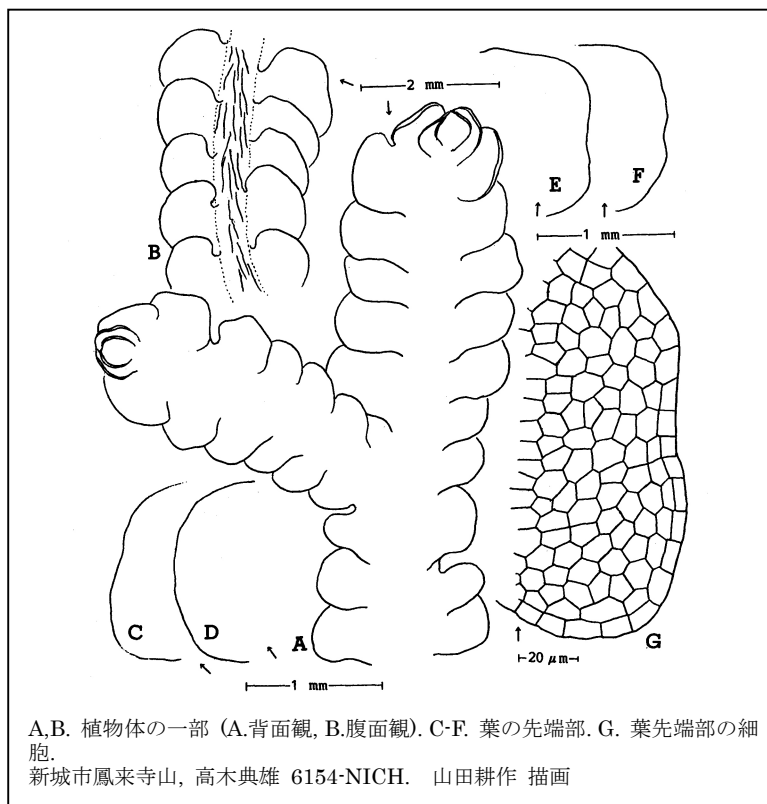
【評価理由】

葉状体から茎葉体への推移を示す特異的な形をしているが、本種は二次的に茎葉体の形が葉状化したものと考えられる。水気の多い湿土上に生育するため、生育地周辺の開発、森林伐採などの影響に対して非常に敏感で絶滅する恐れがある。

設楽町の山林内に個体数は少ないが、広く点々と分布している。これらの生育地の保全状況を見ると、急に減少する恐れがないと判断されたため、今回評価区分の見直しを行なった。

【形態】

植物体は 20~30mm の長さ、白緑色でやや半透明、扁平状である。茎と葉の区別が明瞭でない。葉は茎の横に出て、ゆるく重なり半円形、先端は丸く葉の縁は緩やかに波状。葉細胞は大きく、膜は薄膜でトリゴンを欠く。腹葉はない。仮根は茎の腹面に生じる。雌雄異株である。



A,B. 植物体の一部 (A.背面観, B.腹面観). C-F. 葉の先端部. G. 葉先端部の細胞.
新城市鳳来寺山, 高木典雄 6154-NICH. 山田耕作 描画

【分布の概要】

【県内の分布】

新城市鳳来寺山、設楽町から知られている。

【国内の分布】

琉球諸島から青森県（北限地）辺りまで分布している。本州での産地は概して日本海側に少ない。北海道には分布しない。

【世界の分布】

ヒマラヤ、タイ、マレー半島、スマトラ、ニューギニア、中国、台湾を経て日本に分布している。

【生育地の環境／生態的特性】

湿潤な森林内の風倒木、腐葉土上、樹幹の基部に生えるが、湿岩上に生えることもある。スギ林内でよく見つかる。

【現在の生育状況／減少の要因】

設楽町で生育が確認されているが、レッドデータブックあいち 2009 発行以降、新産地の情報はない。

【保全上の留意点】

湿潤な森林内及び森林周辺一帯の保全が必要。

【特記事項】

茎の周りに円い翼状の葉を出すため肉眼でも識別できる。

【関連文献】

岩月善之助(編), 2001. 日本の野生植物 コケ, 352 pp. 192 pls. 平凡社, 東京.

